



よしみねボイラの75年史

**よしみねボイラの75年史**

ごみ処理技術でも資源循環型社会に貢献し、  
快適な暮らしを支えています。



よしみね水管式廃熱ボイラ (2基)



よしみね水管式廃熱ボイラ WA-460型



中央制御室





廃材チップをボイラーの燃料として再利用し  
顧客のリサイクル推進活動をサポート  
しています。



よしみね水管式バイオマスボイラ H-1000型



ボイラー制御室



燃料（廃材チップ等）

# Biomass

## バイオマス

環境に優しい技術を支援しています

森林は育てながら使う資源、  
人と木を結びます。



よしみね水管式バイオマスボイラ H-500DF型



ボイラー制御室



燃料(木屑)



# Biomass バイオマス

環境に優しい技術を支援しています

自然の中のクリーンエネルギーを見つめて、  
限りある地球のエネルギー資源・環境問題に  
挑戦します。



よしみね水管式バイオマスボイラ H-500型



ボイラー制御室



燃料(木屑・パーク)



エネルギーの安定供給と環境との調和のため  
地球に優しい電力の発電事業をサポート  
しています。



よしみね水管式バイオマス発電ボイラ H-300型



蒸気タービン



燃料(木質系)



#### 発刊のごあいさつ

おかげをもちまして、無事75周年を迎えることができました。  
当社をご支援・ご愛顧いただき、まことにありがとうございます。

これもひとえに、永年にわたる株主様、お客様の温かいご指導、ご支援の賜物であると衷心より厚く御礼申し上げます。また、協力会社、関係メーカー各位のご協力をはじめ、創業以来の諸先輩の尽力、全従業員の皆様の努力にたいして敬意と感謝の意を表します。

さて、平成22年の東日本大震災以来、社会のエネルギーに対するニーズは安全・安心なエネルギーに変化しつつあります。特に自然エネルギーを活用した再生可能エネルギー発電事業に注目が高まり、平成24(2012)年7月1日には再生可能エネルギーの固定価格全量買い取り制度がスタートしました。

木質バイオマス発電は、風力・小水力・太陽光といった再生可能エネルギー発電事業の中でも天候等の条件に左右されず出力をコントロールすることが可能な点において、特に安定した発電量を見込むことが可能な発電事業です。

当社は、昭和28年の石炭焚き第一号機以来、木質、バガス、もみ殻などバイオマス燃料をはじめ、重油やガスの燃焼技術を生かして「エネルギーと環境」の関連事業を展開、工場の生産・発電設備に欠かせない産業用ボイラー3,424缶を国内外に納入し、それらのボイラーは高い評価と信頼を得てまいりました。昭和37年製造の重油焚きのHD-90型ボイラ(神奈川県クミアイ油脂(株)の第440号)は、50年間経った今も現役で立派に稼動しています。ボイラーが愛され、保守に情熱を傾けられたからこそだろうと感激いたします。

このように半世紀にもわたって蒸気を発生し続けられる、優れたボイラーを世に送り出してきた伝統ある「よしみね」の社史を編纂する思いにいたりました。

「よしみね」を築いた人々を戦後の日本社会環境とともに振り返り、僭越ながらその業績を称え、「持続可能な社会」をめざして環境保全に貢献するため全精力をかけてまいります。

今後とも変わらぬご厚誼とご指導のほど、宜しく願い申し上げます。

2014年7月

代表取締役社長 下村 勉